

NPO法人が企画「ビッグステージ」開く

盲ろう者 生き生き暮らせる社会へ

「見えない」「聞こえない」という二重の障がいがある盲ろう者への理解と社会参加を促進しようと、大阪府門真市内でこのほど、「盲ろう者のビッグステージ」が盛大に開催された。主催は、大阪市天王寺区の特設非営利活動法人(NPO法人)「視聴覚二重障害者福祉センターすまいる」(門川紳一郎理事長)。これには、公明党の石川博崇参院議員、山本幸男・大阪府議、井上照代・守口市議が来賓として出席し、あいさつした。

大阪府

この催しは、「すまいる」ヨナルセンターで研修を受けた。その上で、今後、の開設10年を記念して企画されたもの。自ら二重障がいのある門川理事長は、米後には1999年1月に「すまいる」を設立。盲ろう者について「抱負を述べたい」と抱負を述べた。

劇とダンス、和太鼓など披露

公明議員、党員ら後押し、石川氏もあいさつ

自主映画 上映も 理解と支援の輪広がる



大きな拍手が送られた劇とダンスや和太鼓の上演



への各種相談事業やパソコン教室の開催、福祉的就労の場の提供など、幅広い支援活動を続けている。



式典であいさつする石川氏

露し、場内から大きな拍手が送られた。また、門川理事長が挨拶した。

この日の式典で、あいさつに立った石川氏は、公明党の推進する自治レベルの「日本版へレン・ケラー・センター」といえる東京都盲ろう者支援センターが開設したこと

を紹介。その上で、今後、大阪をはじめ全国で「視聴覚二重障がいのある人が生き生きと暮らせる社会を築いていきたい」と抱負を述べた。

この後、舞台では、盲ろう者のメンバーらが劇とダンス、和太鼓、民謡などの見事な演技を披露し、場内から大きな拍手が送られた。

また、門川理事長が挨拶した。

イブや日本聴導犬協会による聴導犬のデモンストレーションなども行われた。

盲ろう者は国内に約2万2000人おり、府内には約1350人いると推計されている。こうした中、井上守口市議は「すまいる」の活動に共感し、門川理事長らと交流を重ねてきた。

ビッグステージ開催に当たっては、広報活動や出演者への依頼など全面的にサポート。当日は党守口第2支部の党員10人が運営ボランティアとして参加した。